

対象サービス	項番	内容	回答
モニタリング	1	研究力評価の新たな側面として、オープンアクセス化をモニタリングする機能はぜひ使ってみたい。利用申請のURLを確認し損ねたが、今後提供される資料にあるのか？	利用申請のURLは下記の通りです。 <a href="https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8">https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8</a> 本URLは公開資料にも記載されています。
モニタリング	2	国内OAモニタリング参加への案内を参加者へ送っていただけるとありがたいです。	利用申請のURLは下記の通りです。 <a href="https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8">https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8</a>
モニタリング	3	そもそも、OA加速化事業における「モニタリング」とはどういうことを意味しているのでしょうか。「モニタリング」とは、NII側からのモニタリングですか、それともエンドユーザー側からのモニタリングでしょうか。「モニタリング」の意図がよくわかりません。	本発表では、CiNii Research機関向けダッシュボードとFrench Open Science Monitor日本版を紹介しました。 CiNii Research機関向けダッシュボードは、「研究機関」が自機関のオープンアクセス論文の割合等の「オープンサイエンスの進展状況」をモニタリング（観測）できるようにすることを目的としています。 French Open Science Monitor日本版は、「国」や「研究機関」等関係するステークホルダが、日本全体の「オープンサイエンスの進展状況」をモニタリング（観測）できるようにすることを目的としています。
モニタリング	4	どれぐらいの論文等が、どういう手段で公開されているかだけでなく、今後どの部分に注力してオープンアクセスを進められるかサジェストする機能などの実装予定。	長期的には、「どの部分に注力してオープンアクセスを進められるか」等のダッシュボードで表示されている指標に対するユーザのアクションを提案する機能を開発したいと考えています。まずは指標を全て実装し、表示された指標に対するアクションのベストプラクティスの事例を収集することで実現していきたいと考えています。
モニタリング	5	出版社が提供している分析ツールとの具体的な差異等を一般事務向けに説明いただけると助かります。	出版社が提供しているツール等との差を「提供指標・機能」と「対象とする研究成果」の観点から回答いたします。 ● 提供指標・機能につきまして CiNii Research機関向けダッシュボードは研究プロセス全体（助成の獲得からインパクト）をカバーしており、研究活動を総合的に分析できるように発展させていく所存です。 ● 対象とする研究成果につきまして CiNii Research機関向けダッシュボードはCiNii Research（参考： <a href="https://support.nii.ac.jp/ja/cir/cir_db">https://support.nii.ac.jp/ja/cir/cir_db</a> ）がデータソースです。このことから、海外の出版社が提供しているツールと比較すると、研究データ・図書等の論文以外の研究成果や日本語等英語ではない論文を幅広く収録しています。 一方、海外の出版社が提供しているツールと比較すると、英語論文のカバレッジに課題があるので、改善を図って行く所存です。
モニタリング	6	モニタリングの説明・申請ページを作ってCiNii Researchのマニュアルからリンクしてほしい。	現在は試用版ということで、CiNiiの試験的な取り組みを紹介するサイトであるCiNii Labs（ <a href="https://labs.ci.nii.ac.jp/">https://labs.ci.nii.ac.jp/</a> ）からのリンクに留めております。
モニタリング	7	モニタリングの手法。例えば複数機関に共著者がある場合の数え方や、助成を受けた成果の把握方法（個別のプロジェクトごとにOA化の進捗を監視するものではないのでしょうか？）	オープンサイエンスモニタリングに関する指標については丁寧な説明を心がけたいと考えています。例として挙げていただいた疑問への回答は下記の通りです。 ● 複数機関に共著者がいるケースの論文のカウント方法 CiNii Research機関向けダッシュボードでは整数カウントを採用しています。すなわち、とある論文の著者2名の所属がそれぞれA大学とB大学であった場合、A大学でも1報、B大学でも1報とカウントされます。 ● 助成を受けた成果の把握方法 現在CiNii Research機関向けダッシュボードでは、助成は科学研究費助成事業（科研費）のみに対応しています。科研費の成果は科研費の報告書より取得しています。著者が年度末等に科研費の報告書を執筆し、プロジェクトの研究成果として論文を挙げると、論文がKAKENデータベースに収録され、それがCiNii Researchにも反映されます。現在、個別のプロジェクトごとにOAの進捗は計っていません。

モニタリング	8	中小規模の大学での取り組みについて、より具体的な事例を伺いたい。	現在は利用事例を収集するところまで到達できていません。今後は、CiNii Research機関向けダッシュボードや類似するサービスの利用事例についても情報提供し、利用機関における具体的な利用方法をイメージできるように努めてまいりたいと存じます。
モニタリング	9	現在、開発されているOAアシスト機能でも自機関の非OA化論文を抽出できると思うのですが、データソースとしてOAアシスト機能はLensを使っており、CiRダッシュボードは国内データベースを使っているとのことなので、この二つを使用することにより国内外の雑誌に載っている論文が広くカバーできるということになりますか？	ご理解の通り、OAアシスト機能とCiNii Research機関向けダッシュボードでより広く論文を把握することができます。OAアシスト機能はLensとJ-STAGE に収録されている論文をカバーしており、CiNii Research機関向けダッシュボードはCiNii Researchに収録されている論文（参考： <a href="https://support.nii.ac.jp/ja/cir/cir_db">https://support.nii.ac.jp/ja/cir/cir_db</a> ）をカバーしています。
モニタリング	10	初耳でした。こちらは各大学で行うべき業務というよりは、国としてやるべきこと、なのでしょうか。	CiNii Research機関向けダッシュボードは、研究機関に対してオープンサイエンスの推進、研究評価に関する業務を支援することを目的としています。機関での業務にお役に立てるようサービスを発展させていただく所存です。